

青森県近代文学館報

平成三十年度特別展「平成の青森文学」

会期 平成30年7月14日(土) ～ 9月24日(月・祝)

青森県は、明治、大正、昭和と、その時代時代に数多くの個性豊かな文学者を輩出してきました。青森の風土から生み出され、受け継がれた「青森文学」の伝統は、平成の世にどのような形で流れ込んだのでしょうか。

本展では、区切りを迎えようとしている平成の時代、その30年間における青森文学の展開を概観していきます。

【特別展の概要】

十代のはじめを青森市で過ごした、なかにし礼の直木賞受賞作「長崎ぶらぶら節」の浄書原稿(専用原稿用紙)及び初校ゲラ、再校ゲラ、校了ゲラ等(以上、日本近代文学館蔵)を展示します。また、古川智映子(弘前市出身)『小説土佐堀川』と平成27年NHK朝の連続テレビ小説「あさが来た」の関連資料を初展示します。「現在活躍中の作家・作品の展示を」というご要望が寄せられておりましたが、今回の特別展では、これまで当館でご紹介する機会が得ら



古川智映子関連資料

れなかった作家及び作品を広くご紹介したいと考えています。

目次

・平成三十年度の予告……………	1
・葛西善蔵生誕一三〇年特別展開催報告……………	2
・青森県俳句懇話会寄贈資料展開催報告……………	4
・没後80年・菊谷栄展開催報告……………	5
・「本の装い」展開催中……………	6
・パネル展開催報告……………	6

□太宰治没後70年

―秘蔵資料大公開―

会期 平成30年10月27日(土)

～平成31年1月14日(月・祝)

太宰治(本名・津島修治)は明治42(一九〇九)年に金木村(現五所川原市)で生まれ、青森中学在学中に作家になることを決意。官立弘前高等学校で学んだのち上京し、昭和11(一九三六)年には第一創作集『晩年』を出版しました。昭和15年「走れメロス」を発表。戦時中も『津軽』や『お伽草紙』等の名作を生み出し、戦後は『斜陽』がベストセラーとなりました。

昭和23年「人間失格」連載中の突然の逝去から70年を経た今、当館で所蔵する太宰資料の数々を公開し、その生涯と業績を振り返ります。これまでは有名な資料の陰に隠れ、知られる機会の少なかった資料群にも光を当てます。

□13人の書画展

会期 平成31年2月23日(土)

～5月19日(日)

青森県近代文学館は、郷土の作家にまつわる文学資料の収集・保存に努め

・エクステンド常設展示「太宰治と今官」……………	7
・「映画監督・川島雄三」……………	8
・第16回青森県近代文学館川柳大会……………	8
・全国文学館協議会共同展示……………	8
・日曜午後の朗読会……………	8
・資料寄贈者紹介……………	9
・館務日誌……………	12

ています。当館が保管している文学資料の中には、作家の直筆の書や絵画、色紙もあります。

本展では、常設展示している13人の作家がかいた「書画」を展示します。作家たちの個性は、筆跡や色づかいとなつて「書画」に表れます。貴重な直筆「書画」を通して、常設展の13人の個性を存分に味わっていただくとともに、作家たちの新たな魅力を発見していただく企画展です。

エクステンド常設展示

青森県近代文学館の常設展示作家たちからピックアップし、展示コーナーを拡大する「エクステンド常設展示」。平成30年6月1日(金)からは、逆境にもめげずたくましく生きる子どもたちの生命力を描いた北畠八穂の児童文学作品を紹介します。12月6日(木)からは、長部日出雄を取り上げる予定です。皆様のご来館をお待ちしています。

「葛西善蔵生誕一三〇年特別展」開催報告

会期 平成29年7月8日(土)

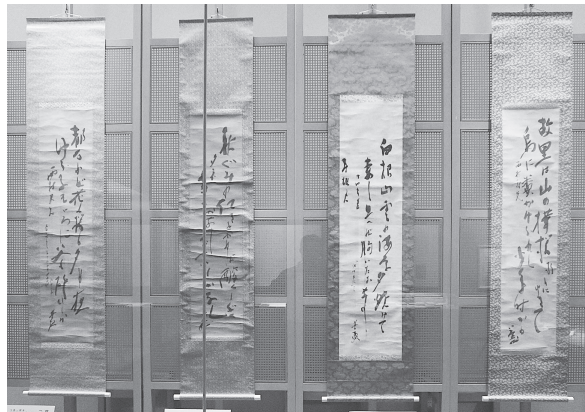
9月18日(月・祝)

大正から昭和のはじめにかけて、貧困と病の中で身を削るようになって作品を書き、私小説・心境小説の第一人者として注目された作家、葛西善蔵(一八八七～一九二八、弘前出身)の生誕一三〇年という節目に当たり、その文学の奥深さに迫る特別展を開催しました。

初日の開会式では、葛西善蔵令孫の伊藤彰彦氏と、フリーアナウンサーの川口浩一氏とお招きし、佐藤幸青森県立図書館・近代文学館長とともにテーブルカットを行いました。テーブルカットに先立ち伊藤彰彦氏は、自家に伝わる葛西善蔵遺品に関する逸話や、祖母である故・浅見ハナ氏についての思い出を披露してくださいました。ごあいさつの内容をほぼ全文文字起こしして、次ページに掲載しましたので、ぜひご覧ください。なお、伊藤氏は、遺品をはじめ、ご所蔵の葛西善蔵資料を当館に寄託する意向を示してくださいました。



葛西善蔵生誕一三〇年特別展のポスター



展示室に並んだ葛西善蔵の直筆詠歌4幅

長部日出雄氏からは「葛西善蔵の詩と真実」、鎌田慧氏からは「葛西善蔵の唄」、伊藤博氏からは「孤高の私小説作家・葛西善蔵の文学について」のパネル原稿を賜うことができ、図録にも収めました。

展示品についてですが、かねてから存在が知られている資料では「白根山雲の海原夕焼けて妻し思へば胸いたむなり」ほか直筆の書幅7点を、新資料では「父の葬式」「東北の原野を夜汽車で過ぎる時など」「血を吐く」の直筆原稿3点(いずれも日本近代文学館蔵)を飾ることができました。図書・雑誌では、生前の全著作初版本のほか、作品掲載誌や「葛西善蔵に魅せられた人々」の著書を多数展示。会期中中に

一部展示替えを行い、総展示資料数は一七〇点となりました。会期中の来場者数は四三五九人でした。

関連イベント

文学講座1―善蔵忌記念・朗読と講演―
平成29年7月23日(日)

青森県総合社会教育センター
(参加者数102名)

朗読「葛西善蔵の現実とロマンを読む」
講師：川口浩一(フリーアナウンサー)

講演「葛西善蔵 津軽人が駆け抜けた夢」
講師：鎌田慧(作家)

文学講座2―映像と講演―

平成29年8月20日(日)

青森県総合社会教育センター
(参加者数87名)

文学ビデオ「一字一拝 葛西善蔵の生涯」

講演「孤高の私小説作家・葛西善蔵の文学―「哀しき父」を中心に―」
講師：伊藤博

(早稲田大学／法政大学非常勤講師)

日曜講座

平成29年9月3日(日)

青森県立図書館研修室

(参加者数23名)

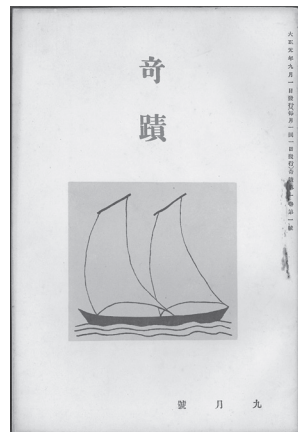
「葛西善蔵生誕一三〇年目の新資料・新事実」
講師：竹浪直人

(青森県近代文学館文学専門主査)

新収蔵・初展示の資料

「奇蹟」第1巻第1号

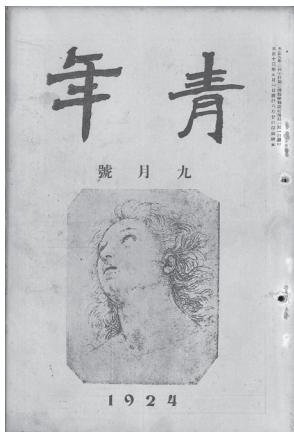
(大正元年9月1日発行)



この創刊号で善蔵は、処女作である「哀しき父」を葛西歌集(うたすつ)の筆名で発表しました。当時さっぱり売れなかったことにより、現存するものは極めて少ない同人雑誌ですが、当館では、平成28年度に入手に成功しました。

「青年」第9巻第9号

(大正13年9月1日発行)



掲載された善蔵の「帰郷小感」は全集未収録の文章ですが、この度の図録に全文転載することができました。興味をお持ちの方はぜひ図録をお求めください。

(竹浪直人、文学専門主査)

「葛西善蔵生誕一三〇年特別展」開会式あいさつ

伊藤 彰彦

おはようございます。私は伊藤と申しますが、葛西善蔵が、一時期鎌倉の建長寺にこもって作品を書いていたときに、近くの茶屋から三食運んでいた娘がいました。その娘が、滞在を終えて東京に戻った善蔵のもとに、善蔵を追いかけてですね、家出をしてしまう。で、その間、何があったのかは実は分かりません。作中おせいという名で登場する浅見ハナ、これが私の祖母になります。一緒に暮らし始めれば子供が生まれる訳で、ゆう子、三女になりますけども、ゆう子が私の母です。妹もいます、久美子。娘二人と善蔵とハナと、東京で、もうその時期、弘前には家族があり、子供もいた訳ですけども、もう一つ家族を持つことになりました。

どうも葛西家はですね、男性は身体があまり強く生まれにくい、こういう家族だったようです。善蔵の従弟にあたる北川清蔵という人が、書生として葛西善蔵のもとに上京して、早稲田大学に通っていました。善蔵は四十数歳で亡くなる訳ですが、母が三歳のときでした。そこからですね、どうやって一体暮らして行くんだろう、弘前の本家に対しては、ハナは一切、申し訳ない連絡を取ろうとしなかったようだし、鎌倉の実家とも、やはり家出をしてきた関係で連絡が取れなかった。そのときに、奇蹟派の文士仲間が、募金

をして助けてくれた。中心は、長く早稲田大学で文学部長をされていた、奇蹟派の同人仲間である谷崎精二先生、谷崎精二先生は谷崎潤一郎の弟さんです。募金を集めて、三宿にタバコ屋さんを持たせてくれたんですね。文士仲間の募金で作ってもらったタバコ屋さんで何とかなんとか暮らしていたんですけども、昭和が進むにつれて、タバコが統制品になってしまい、暮らして行くことができなくなります。どうしても暮らせない状況に陥ったときに、一時期別に暮らしていた北川清蔵が戻って来て、戦災にいたる暗い世相を支えてくれました。東京大空襲、まあ予測されていたんでしょうね。タバコ屋さんがなくなっちゃったんで、浅見ハナは陸軍病院で賄い婦しながら家族を育て、北川清蔵がアルバイトをしながら、母は夜学の高等女学校を奇蹟派の文人がいる都立三田、その当時の三田高女に通うという形で支えてもらったようです。

戦争のさなか、北川清蔵が「葛西の遺品を守らねばならぬ、守って行くんだ」と。だけど疎開先もないものですよから、どうやって守ったかという、穴を掘って、机や遺品、その当時手元にあったものを埋めて残したようです。改造社から、死ぬ間際に出すはずになっていた全集の印税を前払いしてもらって、そのせいかどうか分かり

ませんけれども、生原稿みたいなものは一切返ってきておらず、おそらくは改造社で灰燼に帰したのではないかなあというふうに思います。残っている遺品が非常に少ない。生原稿みたいなものはごくごく希に見られたものしか残っておりません。うちに残っていた机とか鏡とか、書簡集のときに集めて、それで、出したものですから、受け取った方のものなんですけれども、ご厚意で舟木(重雄)先生のご遺族からいただいたものです。母ゆう子も、もう三つのときに善蔵と離れていますので、ほとんど記憶が無いそうです。北川清蔵と一緒に土に埋めて残ったもの、ぜひ、数は少ないし、机や鏡、そんなもののしかないんですけれども、守って来た人たちの思いがこもっているんです。そのつもりで見えていただければ有り難いかなあというふうに思います。

浅見ハナは、大森(澄雄)先生や小山内(時雄)先生が取材でインタビューをしても、なれそめ話や葛西善蔵のことは一切ほとんど語らなかつたそうです。うちで私たち孫が聞いても、ほとんど語ることはありませんでした。だけれども、祖母ハナが、最後アルツハイマーですね、家族のことを顔も分からなくなつて亡くなったんですけれども、少し認知が怪しくなつて来たかなあ、ある意味自制心が緩んで来たかな

あと思うときに、私に語ったことがあります。ほとんど語ったことがない善蔵について、こんなことを言っていました。

あの人がね、あの人がね、ハナに弘前の白い林檎の花見せてやりたかったなあ、林檎の花を見せてやりたかったなあ、こう言ったんよ、言ったんよ。

おそらく短い幸せ、一緒に暮らした期間は短かつたけれども、葛西善蔵がかけた言葉の中で、葛西善蔵の中には弘前への強い思い入れがあり、そして林檎の花畑への郷愁があり、さらにそれを見せてやりたい、こういう何らかの心の交流があつたんだろうなあ、それは作品世界にも描かれない何らかのものがあつたんだろうなあ、こんなふうに思います。今後こちらの館で、こうした遺品は永遠に保存されることになると思いますので、これを節に、宜しく願いたいと思います。

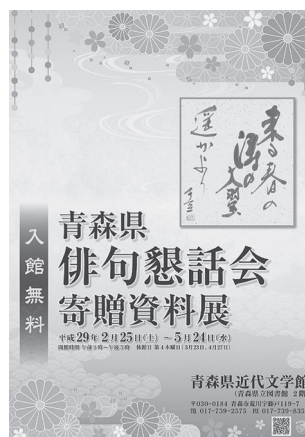
(いとう・あきひこ 葛西善蔵令孫)



葛西善蔵表札

「青森県俳句懇話会寄贈資料展」
開催報告

会期 平成29年2月25日(土)
～5月24日(水)



2月25日(土)から5月24日(水)まで、「青森県俳句懇話会寄贈資料展」を開催しました。平成28年3月25日に、青森県俳句懇話会の徳才子青良会長と草野力丸事務局長がご来館され、会員の皆様が長年苦心して集めてこられた、書画・原稿・書籍等636点を寄贈していただきました。ご寄贈いただいた貴重な資料の中から選りすぐりの99点を展示しました。また、会場にプロジェクターを設置し、全ての色紙・短冊(509点)の画像をご覧いただけるようにしました。当館ではなかなかご紹介する機会に恵まれない中央の俳人たち(正岡子規、高浜虚子、星野椿、星野高士、山口誓子、高野素十、水原秋桜子、飯田蛇笏等)の作品を多数展示することができました。

87日間の会期中、四九七〇名の方が足を運んでくださいました。

5月21日
(日)にはト

ークイベン
ト「没後10
年 成田千
空を語る」
を開催しま
した。講師
に、齋藤美
穂氏(千空
研究会調査
研究員)、
西谷ともえ
氏(千空研
究会会員)
をお迎え
し、成田千
空の魅力や
地域とのつ
ながりにつ
いてお話し
いただきました。当日はロビ
ーを埋め尽くす34名の方々にご参加い
ただき、盛況のうちに終わりました。

展示紹介

【青森県俳句懇話会コーナー】

青森県俳句懇話会は会員相互の親睦を図り、相互に協力して県俳壇の向上発展を期するために設立されました。

顧問を務め、「青森県句集」を50集まで刊行して県俳壇に尽力した高松玉麗の色紙4点、初代会長を務め、青森県文化賞・青森県褒賞を受けた工藤汀翠の色紙、第三代会長を務め、角川俳



特別展示した成田千空遺品類



句賞・八戸文化賞・青森県文化賞・勲五等瑞宝賞を授けられた加藤憲曠の色紙4点、第四代会長を務め、暖鳥賞・海程賞を受賞した徳才子青良の色紙4点等を展示しました。

【角川俳句賞コーナー】

角川俳句賞は俳句総合誌「俳句」が主催している公募の俳句新人賞です。俳人の登竜門としても知られており、「俳句会の芥川賞」とも呼ばれています。

青森県在住の受賞者である木附沢青、米田一穂、村上しゅら、河村静香の短冊・色紙を展示しました。木附沢麦青の同賞レリーフ、村上しゅらの同賞副賞の置き時計も展示しました。



角川俳句賞副賞

【成田千空コーナー】

成田千空は青森市に生まれました。青森工業学校を卒業後、東京に勤めましたが、結核を患い帰郷。高松玉麗に師事します。昭和20年青森空襲で焼け出された後は、今の五所川原市に移り

住みました。昭和21年、青森俳句会の「暖鳥」の創刊に加わり、中村草田男が「萬緑」を創刊するといち早く参加。第一回「萬緑賞」を得ました。昭和58年、師の中村草田男が逝去すると、何度も上京を勧められるが固辞。あくまでも棲む所は五所川原、作品もこの北の大地から生み出すことを表明しました。昭和63年、満場一致で「俳人協会賞」に決定。平成10年、句集「白光」で青森県初の蛇笏賞を受賞。みなづき賞受賞。五所川原市の名誉市民です。

成田千空コーナーでは、ポスターに掲載した「来る春の涛の大翼遙かより」をはじめとする色紙5点の他、自筆染め抜きの風呂敷や、ご本人の背広も展示しました。また、成田千空の逝去を悼み、全国から寄せられた弔句の数々を展示しました。

(武永佐知子、文学専門主査)



「没後80年・菊谷栄展」
開催報告

会期 平成29年10月28日(土)

～平成30年1月14日(日)～



菊谷栄は、明治35(一九〇二)年、青森市に生まれ、昭和の喜劇王・エノケンこと榎本健一の座付き作家として、その黄金時代を支えた伝説の劇作家です。昭和12(一九三七)年9月、活躍の真只中に召集され、中国で戦死します。もし戦後も生きていれば、日本のミュージカルはもっと違った展開を見せていたと言われています。

今回の展示では、ご遺族が大切に保管して来られた菊谷遺品の絵画、原稿、台本等をお借りし、文学館所蔵の菊谷原稿と併せて展示しました。また、菊谷栄の顕彰に長年にわたって尽力して来られた高木保氏からも多大なるご協力をいただくとともに、多くの貴重な資料を提供していただきました。さらに、菊谷栄研究の第一人者である平島高文氏には、「菊谷栄が見た夢」という題で展示の基調をなす文章をお寄せいただきました。12月10日の日曜講座では、50名の方に参加していただきま

したが、菊谷が画家から脚本家に転身した背景に関する話題を中心にお話しました。会期中、二六八八名の方に足を運んでいただきました。



展示紹介

【菊谷栄絵画】

菊谷栄は、大正10(一九二二)年、画家になるために上京し、川端画学校で油彩技術の習得に努めるとともに、日本大学法文学部美学科(現・芸術学部)にも通います。

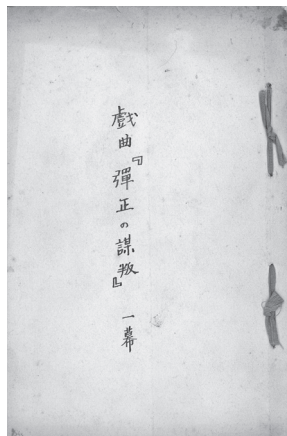
菊谷の描いた大小の水彩、油彩絵画を多数展示しました。菊谷は、大正期の青森市における油絵画家の草分けでもありました。



「踊り娘(レヴェウガール)」(制作年不明)

【未発表戯曲・劇評】

画家になるために日夜キャンパスに向かい、絵筆を走らせていた菊谷でしたが、下宿の先輩の影響で歌舞伎の面白さに目覚めます。さらに、大学での演劇に関する講義に刺激を受けると、次第に演劇への興味が膨らんでいきました。劇作家・畑耕一講師の授業で書いた戯曲が「モノになる」と激賞されて自信を得た菊谷は、精力的に劇場に足を運ぶようになり、絵の勉強と並行して演劇を鑑賞しては劇評を書き、また戯曲の創作に取り組みます。



「弾正の謀反」(大正12年6月)

【原稿・台本】

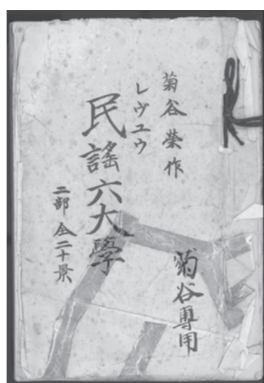
昭和初期の不況を背景に、労働争議が頻繁に起こるようになると、菊谷は自分の歩んでいるブルジョア絵画の道に疑問を抱き始めます。思想的煩悶の中、夜毎近くのおでん屋で安酒をあおるようになるのですが、そこで、うだつの上がらない役者に出会います。その役者こそ後の喜劇王・エノケンだったのです。劇団の背景描きに誘われ、それに応じた菊谷は、舞台装置係として働き始めますが、学生以来続けて来た脚本創作の修練を活かして脚本家に転じると、みるみるうちに才能を発揮して、エノケンの黄金時代を築

く立役者となっていくたのでした。展示では、初公開となる菊谷が持っていた原稿、台本を上演の年代順に展示しました。このほか、菊谷と交流があった太宰治、竹内俊吉からののがき等、計二五〇点を超える資料を展示しました。

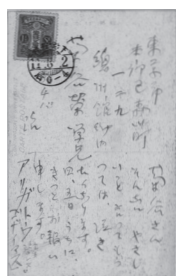
(伊藤文一、室長)



舞台装置下絵「ヴァラエター・ピックリハウス」(昭和6年5月)



「民謡六大学」(昭和10年3月上演)



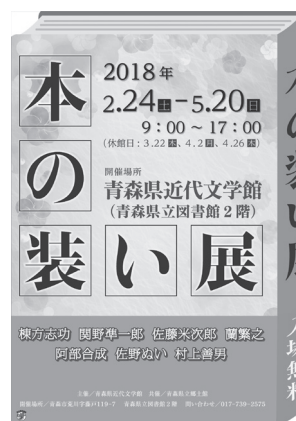
菊谷宛太宰治はがき
(昭和11年8月2日)

「本の装い」展

開催中

会期 平成30年2月24日(土)

～5月20日(日)



手に取って読みたいと思う本に装丁の美しい本があります。鮮やかな表紙、カバー、挿絵は読み手の心を躍らせてます。そんな「本の装い」と「文学」に焦点を当てた展示です。

本展では、青森県出身の版画家たち(棟方志功、関野準一郎、佐藤米次郎、蘭繁之)が携わった装丁本や挿絵を展示しています。また、「修羅の画家」と呼ばれた阿部合成および「青の画家」と称される佐野ぬいの表紙絵原画と装丁本、美術家でありながら文筆家でもあった村上善男の装丁本を展示します。

〈展示構成と見どころ〉

第一章 昭和初期の青森県の版画家たち

(解説・展示…県立郷土館)

▽今純三表紙画

(4月1日まで)

▽『思ひ出』根市良三装画

(4月3日から)

第二章 棟方志功の世界

▽谷崎潤一郎宛書簡と

『鍵』『夢の浮橋』ほか

第三章 関野準一郎の世界

▽『故里民話』〈新収蔵資料〉

第四章 佐藤米次郎の世界

▽青森初の児童雑誌

『むつの子』

第五章 蘭繁之の世界

▽緑の笛豆本と専用津軽塗本箱

第六章 阿部合成の世界

▽今官一『壁の花』『幻花行』

表紙絵原画

第七章 佐野ぬいの世界

▽『北畠八穂児童文学全集』

表紙絵原画

第八章 村上善男の世界

▽長部

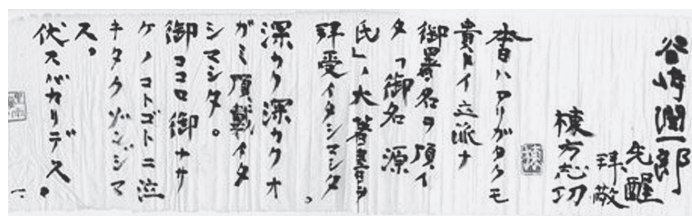
日出雄

津軽の

本シリ

ーズ

貴重な限定本や特装本からは、技法・紙・フォントに至るまでのこだわりが感じられます。また、装丁に込められた装丁者の想いや、著者とのエピソードについてもご紹介しています。



棟方志功谷崎潤一郎宛書簡(昭和31年)

パネル展開催報告

新たに「葛西善蔵」を製作しました。会場・期間は次のとおりです。

◇「斗南藩と文学」パネル展

横浜町ふれあいセンター

4月12日～6月7日

青森県立三沢高等学校

7月14日～7月17日

◇「太宰治」パネル展

ふかうら文学館

5月23日～6月20日

青森県立弘前中央高等学校

7月13日～7月15日

伊藤忠吉記念図書館

10月13日～10月29日

弘前大学文芸・医学部キャンパス

厚生施設内

11月2日～11月29日

◇「太宰治生誕100年」パネル展

青森県立金木高等学校

5月24日～5月30日

伊藤忠吉記念図書館

6月16日～6月30日

横浜町ふれあいセンター

7月6日～8月31日

金木観光物産館マデニー

10月13日～10月29日

◇「詩人・村次郎展」パネル展

横浜町ふれあいセンター

6月8日～7月5日

八戸ポータルミュージアムはっち

10月26日～10月29日

◇「石坂洋次郎没後20年展」パネル展

青森県立弘前中央高等学校

7月13日～7月15日

パネル展開催報告

新たに「葛西善蔵」を製作しました。会場・期間は次のとおりです。

◇「斗南藩と文学」パネル展

横浜町ふれあいセンター

4月12日～6月7日

青森県立三沢高等学校

7月14日～7月17日

◇「太宰治」パネル展

ふかうら文学館

5月23日～6月20日

青森県立弘前中央高等学校

7月13日～7月15日

伊藤忠吉記念図書館

10月13日～10月29日

弘前大学文芸・医学部キャンパス

厚生施設内

11月2日～11月29日

◇「太宰治生誕100年」パネル展

青森県立金木高等学校

5月24日～5月30日

伊藤忠吉記念図書館

6月16日～6月30日

横浜町ふれあいセンター

7月6日～8月31日

金木観光物産館マデニー

10月13日～10月29日

◇「詩人・村次郎展」パネル展

横浜町ふれあいセンター

6月8日～7月5日

八戸ポータルミュージアムはっち

10月26日～10月29日

◇「石坂洋次郎没後20年展」パネル展

青森県立弘前中央高等学校

7月13日～7月15日

青森県立八戸高等学校

7月14日～7月16日

◇「棟方志功と青森の文学」パネル展

青森県立青森西高等学校

7月14日～7月20日

青森県立中里高等学校

10月20日～10月21日

◇「青森の文学者たちの戦前・戦中」パネル展

青森県立青森北高等学校

7月15日～7月16日

◇「大町桂月が描いた青森」パネル展

ふかうら文学館

8月4日～9月3日

◇「作家と出会う」パネル展

青森県立弘前南高等学校

9月1日～3月31日

◇「寺山修司没後30年」パネル展

横浜町ふれあいセンター

9月5日～9月30日

◇「青森県近代文学館名品展2—文学者たちの絆」パネル展

県総合社会教育センター

10月1日

◇「北畠八穂」パネル展

青森県立北斗高等学校

10月7日

◇「梅内美華子と珠玉の短歌」パネル展

青森県立北斗高等学校

10月7日

◇「成田千空」パネル展

五所川原市立図書館

10月27日～11月12日

ふかうら文学館

11月22日～12月19日

◇「鳴海要吉」パネル展

横浜町ふれあいセンター

10月25日～1月15日

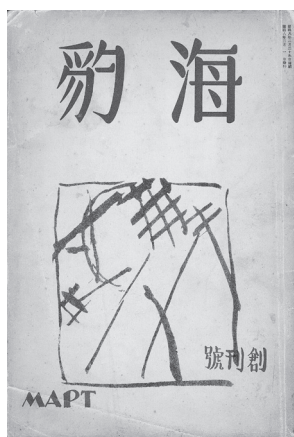
エクステンド常設展示 「太宰治と今官一」開催報告

会期 平成29年6月2日(金)
～11月29日(水)



常設展示室の太宰治・今官一コーナーを拡大し、文学に打ち込んだ二人の青春と友情の軌跡をたどりました。

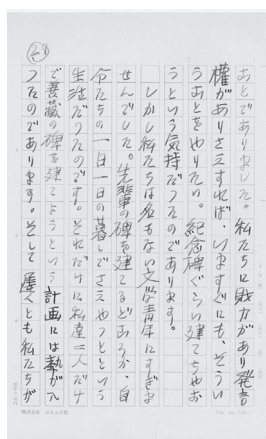
昭和2年夏、第一早稲田高等学院に在学していた今官一は、弘前に帰省した際、官立弘前高等学校に通う同い年の文学青年・津島修治(太宰治)に初め



「海豹」創刊号

て会ったといひます。5年、東京帝国大学への進学を果たし上京した太宰を、官一は上野駅で出迎えています。

8年、官一は、古谷綱武らとともに創刊した同人誌「海豹(かいひょう)」に、まだ無名だった太宰を推薦し、これにより、初期の名作「魚服記」「思ひ出」が世に出ることとなりました。太宰と官一は互いを畏友として認め合い、その交流は生涯にわたって続きました。11年、太宰は、パビナル中毒の悪化で強制入院させられる数日前、官一に宛てた手紙に「君を信じ、敬ふ」と記しています。戦争末期、空襲が激しくなる中、太宰は応召した官一から預かった大量の原稿を持って逃げ、最後まで守り通しました。



今官一草稿「善蔵を想う」

二人は、敬愛してやまない葛西善蔵の碑を津軽に建てる約束をしていましたが、23年に太宰はこの世を去ってしまいます。当時、太宰の死については、とかくスキヤングダラスな面ばかりが取り沙汰されがちだった中で、官一は次々とエッセイを発表し、命を削って文学に打ち込んだ太宰の純粋な魂について力説し弁護しています。太宰の命日、6月19日に行われる偲ぶ会「桜桃忌」は、官一の提唱による命名でした。

エクステンド常設展示 「映画監督・川島雄三」開催中

会期 平成29年12月7日(木)
～平成30年5月27日(日)

エクステンド常設展示 映画監督・川島雄三



平成29年12月7日(木)～平成30年5月下旬
9:00～17:00 毎月第4木曜日と年末年始(12月28日～1月3日)は休館
青森県近代文学館
〒030-0184 青森市荒川字藤戸119-1 青森県立図書館2階
TEL:017-739-2575 FAX:017-739-8352 入場無料

エクステンド常設展示第6弾では、大正7(一九一八)年2月4日、田名部町(現むつ市)の生まれで、平成30年が生誕一〇〇年のメモリアルに当たる、川島雄三を取り上げました。昭和19(一九四四)年、第一作の「還って来た男」(織田作之助原作)以来、文芸作品に基づく映画を数多く制作し、「奇才」と称された映画監督で、当館では常設展示室においてジャンル別33人の一人と位置づけています。

野辺地中学校(現野辺地高校)在学中から文学と映画に強い関心を寄せた川島は、明治大学では映画研究部に所属。昭和13年に松竹大船撮影所に入社し、5年を経て監督に昇進しました。その後、複数の映画会社を渡り歩き、日活時代に制作した「幕末太陽伝」(昭和32年封切)は代表作となりました。昭和38年6月11日に急逝しますが、45年の生涯で計51本の作品を残しましたが、今回の企画では、映画監督・川島雄



「川島雄三に迫る文献群」のコーナー

三の軌跡に迫るべく、次のように展示を構成しました。まず、展示室入口そばのケースには「川島雄三研究」特集が掲載された「キネマ旬報」第336号(昭和38年4月1日発行)の実物とコピーを併置して、川島雄三「自作を語る」を全文読むことができるようにしました。この「自作を語る」は、川島雄三が逝去の数か月前に、それまで監督した50作品を振り返った、非常に重要なエッセイです。

展示室の中央部には「川島雄三が監督した映画51作品」パネル9枚を設置し、タイトルはもとより、原作者や主な出演者等の情報も紹介しました。そして各パネルの手前のケースには、対応する作品の台本(「シミキンのスポーツ王」ほか計8点)やスチール写真(「真実一路」ほか計7点)、VHSのジャケット(「還って来た男」ほか計13点)等を配置しました。出口そばのロングケースには「川島雄三に迫る文献群」と銘打って研究書や雑誌の特集号等12冊を並べ、総資料展示数は46点となりました。

第16回青森県近代文学館川柳大会 開催報告

平成30年3月4日(日)、第16回青森県近代文学館川柳大会を、県立図書館集会室において開催いたしました。参加者は91名、参加者同士の交流や柳誌の展示・交換も行われ、熱気に包まれた大会となりました。

今回の宿題は、「線」「サバイバル」「いそいそ」「住む」でした。また当日発表の席題は、企画展示室で開催中の「本の装い」展の展示物から、「関野準一郎」「古事記絵巻」でした。

今年の講演は岩手県生まれで、日本川柳協会理事、「川柳人」主宰の佐藤岳俊氏をお迎えし、「鶴彬を語る」という題で講演していただきました。鶴彬の人脈や青森ゆかりの文学者との関係性などを中心にお話しいただき、鶴彬の人物像を身近に感じることができました。

【特選受賞作】

席題「関野準一郎『古事記絵巻』」

葉 閑女選

野心らんらん燃え尽きますか飛びますか
守田啓子

席題「関野準一郎『古事記絵巻』」

三浦敬光選

少年よ版画の黴を嗅ぎなさい

千島鉄男

宿題「線」福田文音選
ハッピーな生命線があらつ伸びた

瀧尻善英

宿題「線」小野五郎選

手話の指ひかりの糸を紡ぎ合う

井上健蔵

宿題「サバイバル」悠とし子選

サバイバル敵と同舟心療科

阿部治幸

宿題「サバイバル」阿部治幸選

僕だけが生存者です四コマ目

瀧尻善英

宿題「いそいそ」佐藤寿見子選

結婚も離婚もいそいそ届け出る

森 雄岳

宿題「いそいそ」田沢恒坊選

一年に一度は揺れる天の川

三浦敬光

宿題「住む」内村ゆめ選

築百年インスタ映えの小屋に住む

栗橋くにお

宿題「住む」野口一滴選

千代紙の鶴と寝ている母である

千島鉄男

全国文学館協議会共同展示 「311文学館からのメッセージ」 開催中

会期 平成30年3月1日(木)

～3月31日(土)



秋田雨雀「骸骨の舞跳」 大正14年2月16日 葦文閣刊

「震災と秋田雨雀」

青森県黒石町(現黒石市)に生まれ、戯曲、小説、児童文学、評論など多彩な分野で活躍した秋田雨雀。「日本社会に於ける一つの良心的存在として生きて行きたい」というヒューマニズムに裏付けられた活動は、没後50年以上経た今も輝きを放っています。大正12(一九二三)年の関東大震災翌年に発表した戯曲「骸骨の舞跳」を中心に、震災前後の秋田雨雀の活動を紹介しています。

日曜午後の朗読会報告

今年度の朗読会は全7回、のべ67名の方にご参加いただきました。春から解説員に男性が加わり、交互に担当しました。

- ① 4月23日 佐藤紅緑「少年讃歌」
- ② 5月21日 寺山修司「われに五月を」
- ③ 6月25日 太宰治「グッド・バイ」
- ④ 8月27日 葛西善蔵「蠢く者」
- ⑤ 9月24日 石坂洋次郎「青い山脈」
- ⑥ 10月22日 高木恭造「詩人でない詩人の詩でない詩」
- ⑦ 11月26日 北畠八穂「透った人」



朗読会

フェイスブック始めました

今年度、フェイスブックの試験的運用を始めました。文学館に住みこむ「くまきち」と職員が、文学館のイベントや青森の作家・文学についてご紹介しています。

インターネットで

「青森県近代文学館フェイスブック」で検索するとご覧いただけます。



資料寄贈者紹介

次の方々から資料を寄贈していただきました。誠にありがとうございました。今後とも当館へのご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

今期のご寄贈(平成29年1月～12月)

- アイトでオン!事務局―『アイトでオン!』二冊
- 青森県―『西浜と外ヶ浜の民族』他図書一冊
- 青森県観光連盟―『あおり教育旅行ガイドブック2017』
- 青森県児童文学研究会―『ずぐり』第79号二冊
- 青森県長寿社会振興センター―『あすなろ倶楽部』Vol.101
- 青森県文化財保護協会―『東奥文化』第8十八号
- 青森県文化振興会議―『創立五十五周年記念誌』
- 青森県立青森東高等学校放送部―『平成29年度青森東高校 放送部作品集』DVD
- 青森県立美術館―『夢に挑む洋画をめぐる画家たちの冒険』
- あおり草子編集部―『あおり草子』第二四三号 他雑誌二冊
- 青森文芸出版―『わが心の〈空〉』
- あきは書館―『言葉で世界を裏返せ!』
- 荒川区地域文化スポーツ部ゆいの森課文学館係―『吉村昭とふるさとあらかわ〜生い立ちとその作品世界〜』
- いしがみ刊行会―『いしがみ』第28号
- 石本晴代―『石本隆一評論集成』
- 一戸晃―『詩人 一戸謙三の軌跡 第二集』他図書十五冊・鳴海要吉歌碑建立関係資料一式
- 一茶記念館―『小林一茶百九十一回忌 全国俳句大会作品集』

- 伊藤博―『THE RHETORIC OF CONFESSION』
- 井上靖記念事業実行委員会―『第1回井上靖記念文化賞』
- 今泉敏雄―『春夏秋冬』第23号
- 井村行子―『福士幸次郎関係資料一式』
- およう句会―『およう自選十句集 第十二巻』
- 大庭れいじ―『飛翔OB会』第24号
- 小笠原眞―『詩集 父の配慮』二冊
- おかじょうき川柳社―『おかじょうき』(2011)他雑誌十一冊
- かごしま近代文学館―『向田邦子と日々の器』他図書一冊
- 神奈川文学振興会―『没後50年 山本周五郎展』他図書三冊
- 鎌倉文学館―『リスバクト 好き好き大好き』他図書一冊
- 川上浦子―『奈良武智夫関係写真 企画集団ぶりずむ―『布嘉』佐々木家を紡いだ人たち』
- 北九州市立文学館―『北九州の文学 北九州市立文学館10周年記念誌』
- 北九州市立松本清張記念館―『清張と鉄道』他図書一冊
- 木附沢麦青―『句集玫瑰』第一輯 他図書六冊・雑誌十八冊
- 京武久美―『学級雑誌「黎明」第4号等コピー十冊』
- 草野力丸―『件』第28号 他図書二冊
- 久慈きみ代―『駅を出ると文豪の街II』二冊
- 国原社―『国原』No.68 他雑誌二冊
- 黒岩恭介―『九州造形短期大学紀要』第39巻二冊
- 群馬県立土屋文明記念文学館―『現代女性歌人展』他図書三冊
- K&Bパブリッシング―『おとな旅ブレミアム 函館・津軽』
- 現代文学史研究所―『現代文学史研究』第二十五集
- 高知県立文学館―『宮尾登美子 八十八年の生涯』

- 郷ゆき―『REBIRTH』二冊
- 国書刊行会―『寺山修司論』
- 国民みらい出版―『樹霊』第三集
- 五所川原市教育委員会文化スポーツ課―『奈良絵本「平家物語」―山田春雄コレクシオン』二冊
- さいたま文学館―『さいたまの妖怪』他図書一冊
- 齊藤しじみ―『句集 二月四日』
- 坂本秀子―『詩集 星の成分』
- 桜庭和浩―『津軽野』(11)他雑誌二冊
- 佐々木基―『全集刊行会』佐々木基一年譜・書誌 二〇一六年増補改訂
- 佐々木達司―『成田千空・小野正文対談カセットテープ等特殊資料三冊』
- 佐々木靖章―『意匠』(214)他雑誌四冊
- 佐藤幸子―『句集 はなみづき』二冊
- シチズン時計株式会社―『シチズンセールスニュース』合本二冊
- 清水義和―『行動する多面体』
- 新宿区立新宿歴史博物館―『新宿ゆかりの文学者』
- 水鳥社―『水鳥』(490-522)二冊
- 杉野利久―『杉野美友旧蔵資料一式』
- 鈴木忠次―『江渡秋嶺(幸三郎)年譜』他雑誌二冊
- 川柳「風の会」―『合同句集』他図書三冊
- 醍醐洋子―『萬緑』関係資料一式
- 高澤光雄―『深田久弥と北海道の山』他雑誌一冊
- 節のふるさと文化づくり協議会―『土のふるさと 第19回長塚節文学賞入選作品集』
- 高橋千夜湖―『青森県句集』第46集 他雑誌三冊
- 竹森茂裕―『奥の細道』別冊 第17号 他雑誌一冊
- 蠶の会―『蠶』第63号 他図書一冊
- 館田勝弘―『青年』(9-9)他雑誌九冊
- 短歌結社「草の会」―『平成二十八年度歌会詠草集「耀ふ」二冊』
- 千葉芳醇―『千葉芳醇句集 古稀の余白』
- 千葉禮子―『第27回青森県民文化祭 文芸コンクール入選作品集 2017』

- 壺井栄文学館―『第14回二十四の瞳岬文壇エッセー募集入賞作品集』
- 東奥日報社―『あゆみ』
- 東京青森県人会―『東京と青森』(52-8)
- 東京都江戸東京博物館―『東京都江戸東京博物館紀要』第7号
- 藤樹社―『書道界』通巻334号
- 徳島県立文学書道館―『寂聴と徳島』他図書一冊
- 徳田秋聲記念館―『秋聲』
- 飛内文代―『夜のピクニック』
- 富岡昭一―『村上しゅら関係資料一式』
- 内藤晴行―『上毛国語』第八十二号
- 永岡孝一―『映画「サード」ポスター』
- 中原中也記念館―『詩が生まれた場所へ』
- 成田市市―『成田千空関係資料一式』
- 日本歌人クラブ―『2017年版 現代万葉集』
- 日本近代文学館―『太宰治文庫目録 増補版』他図書一冊
- 日本現代詩歌文学館―『詩歌と音のプリズム』
- 野沢省悟―『総合誌あおり』(4-6) 他雑誌二十四冊
- 野村聡―『追魂記』
- 八戸ブックセンター―『土地と声』二冊
- パブリック・ブレイン―『Day Art』Vol.20
- 林昭雄―『家族の彩いろ』二冊
- 萬緑発行所―『中村草田男全句』
- 弘前市立郷土文学館―『石坂洋次郎展―『青い山脈』70年』二冊
- 弘前大学文芸部OB―『利字古字』Vol.3
- 廣澤春任―『東奥馬誌』
- 「ふくい風花随筆文学賞」実行委員会―『ふくい風花随筆文学賞 二十周年記念誌』
- 福土光生―『拝啓 俳句様』二冊
- 福地順一―『詞葉集 あきらめの旅にあれば』
- ふくやま文学館―『今井絵美子―人情と自然と』他図書二冊
- 船水流―『船水公明関係資料一式』

- フライの雑誌社―『文豪たちの釣旅』他
図書一冊
- 古川智映子―「あさが来た」関係資料一式
- 文京区立森鷗外記念館―『私がわたくしであること』他図書一冊
- 文京ふるさと歴史館―『季節のうた―歌人 窪田空穂 生誕一四〇年・没後五〇年―』
- 北海道立文学館―『《民藝》との遭遇』他図書二冊
- 北國新聞社―『北國文華』第74号
- 前橋文学館―『日和聡子』『びるま』から『砂文』まで』他図書一冊
- 町田久次―『毒盃』
- 町田市民文学館ことばらんど―『野田宇太郎 散歩の愉しみ展』
- 松木俊輔―『黎明』大正十三年十一月号
- 松山市立子規記念博物館―『子規・漱石・極堂―俳句革新の地 松山―』他図書一冊
- 間山淑子―『三ッ谷先生詠草』等特殊資料三点
- 三浦哲郎文学顕彰協議会―『三浦哲郎文学顕彰協議会十周年記念誌 素顔』
- 南相馬市埴谷・島尾記念文学資料館―『小高から未来へ―島尾敏雄のふるさとを巡る―』
- 村次郎の会―『風の軌跡 村 次郎』通信』創刊号二冊
- もも編集室―『もも百歳』秋号Vol.118
- 森英一―『北國文華』第74号
- 森の座青森支部―『未来』第50号 他雑誌七冊
- 森の座発行所―『森の座』(1―1) 他雑誌八冊
- 山内恭子―高木恭造関係資料三点・『鴉白書』他図書四冊
- 山内ひろ子―三ッ谷平治色紙等特殊資料四点・成田千空展関係資料一式
- 山口佳紀―山口繁太郎関係資料一式
- 山梨県立文学館―『津島佑子展 いのちの声をさかのぼる』
- 山本晶―『エマソンの「文明」論』
- 山本正敏―『棟方志功装画本書目』
- 雪の会―菊谷栄関係資料一式
- 「樸」俳句会―『黒石俳句同好会合同句集 あゆみ』
- 吉田槲子―今日出海関係資料一式
- 梁山泊俳句会―『梁山泊』創刊号 他雑誌五冊
- 継続的な御寄贈
- 會津八一記念館―『雁魚來往(五)』
- 青嶺俳句会―『青嶺』
- 青森アララギ会―『青森アララギ』
- 青森県歌人懇話会―『青森県歌集』
- 青森県教育厚生会―『三潮』
- 青森県郷土作家研究会―『郷土作家研究』
- 青森県現代俳句協会 ―『青森県現代俳句年鑑』
- 青森県川柳社―『ねぶた』
- 青森県退職高等学校校長会(さつき会)―『さつき会たより』
- 青森県版画会―『青森版画』
- 青森古今短歌会―『青森古今』
- 青森文学会―『青森文学』
- 青森文芸出版―『会報「千空研究」』『あおり文芸さろん』
- 青森ペンクラブ―『北の邊』
- 井上康―『みちのく春秋』
- 井上靖記念文化財団―『伝書鳩』
- 井上靖研究会―『井上靖研究』
- 小笠原茂介―『第三次 BRA』[午前]
- 大佛次郎記念館―『おさらぎ選書』
- 小田桐優子―『俳句鼎 妙』
- 小山正見―『感泣亭秋報』
- 飾画の会―『飾画』
- 風詩社―詩誌『風』
- 金沢文化振興財団―『研究紀要』
- 「神津恭介ファンクラブ」事務局―『らんだの城通信』
- 北の会―『きたのやかた』
- 北の街社―『北の街』
- 陸羯南会―『陸羯南会誌』
- 黒艦隊―『俳句同人誌 黒艦隊』
- 群系の会―『群系』
- 薫風発行所―『薫風』
- 群馬県立土屋文明記念文学館―『群馬県立土屋文明記念文学館 紀要『風』』
- 勁草社―『勁草』
- 月刊弘前編集室―『月刊『弘前』』
- 五所川原俳句会―『五所川原俳句会会報』[県下俳句大会入選句集]
- 越谷市立図書館 野口富士男文庫―『野口富士男文庫 第十九号』
- 小山弘明―『光太郎資料47』『光太郎資料48』
- 蓑笠亭・愚庵・古道人研究―『蓑笠亭・愚庵・古道人研究』
- さわらび短歌会―『さわらび』
- 此岸俳句会―俳誌『此岸』季刊誌 此岸』
- 紫明の会―『紫明』
- 下北文化社―『下北文化』
- 洪柿園俳句会―『洪柿園』
- 書肆 北奥舎―『北奥氣圈』
- 詩霊の会―『詩霊』
- 雪天俳句会―『雪天』『雪天句集 第11集』
- 全国文学館協議会事務局―『全国文学館協議会紀要』
- 川柳「風の会」―『風紋』
- 川柳触光舎―『触光』
- 川柳ゼミ 青い実の会―『青い実』『青のメモリー』『珈琲時間』
- 川柳塔みちのく―『川柳塔みちのく』
- 川柳ひらなひ社―『川柳ひらなひ』
- 外海吟社―『外海』
- 泰斗舎―『あおり芸術鑑賞友の会文化情報誌 びーち』
- 高田寄生木―『北貌』
- 高山市生涯学習課―『高山市近代文学館調査・研究報告書』
- たかなな発行所―『たかなな』
- 「太宰治スタディーズ」の会―『太宰治スタディーズ』
- 潮音社―『潮音』
- 童子津軽句会―『津軽通信』
- 胴乱詩社―『胴乱』
- 十和田かばちえつば川柳吟社―『川柳かばちえつば』
- 中原中也記念館―『中原中也研究 第二十二号』
- 成田本店―『青春と読書』『図書』『波』
- 新美南吉記念館―『研究紀要』
- 西谷是空―『きじ鳩』
- 日本近代文学館―『日本近代文学館年誌』
- 日本民主主義文学会弘前支部―『弘前民主文学』
- 野辺地川柳社―『川柳常夜燈』
- Oashinaco―『本のパーキング』
- はちのへ川柳社―『川柳うまつこ』
- 八甲田川柳社―『川柳八甲田』
- 波濤短歌会青森支部―『波濤青森』
- 帆風美術館―『風』
- 萬緑青森支部―『未来』
- 萬緑発行所―『萬緑』
- 姫路文学館―『姫路文学館紀要』
- 弘前詩塾―『弘前詩塾』
- 弘前川柳社―『川柳「林檎」』
- 弘前大学国語国文学会―『弘前大学国語国文学』
- 弘前文学学校―『文学いちば』
- 弘前文芸協会―『文芸弘前』
- 弘前ペンクラブ事務局―『弘前ペンクラブニュース』
- 福田正夫詩の会―『焰』
- ふだん記津軽グループ―『ふだん記津軽』
- 文藝軌道の会―『文藝軌道』
- 北苑歌話会―『北苑ノート』
- 北狄社―『北狄』
- 松丘保養園松桜会―『甲田の裾』
- 宮沢賢治学会イーハトーブセンター―『宮沢賢治研究Annual』
- 無名群社―『無名群』
- 山田尚―『亜土 第二次』
- 山梨県立文学館―『資料と研究』
- 悠短歌会―『悠』
- 「樸」俳句会―『樸』
- 吉崎光一―『二〇一七年版県詩集 青森』

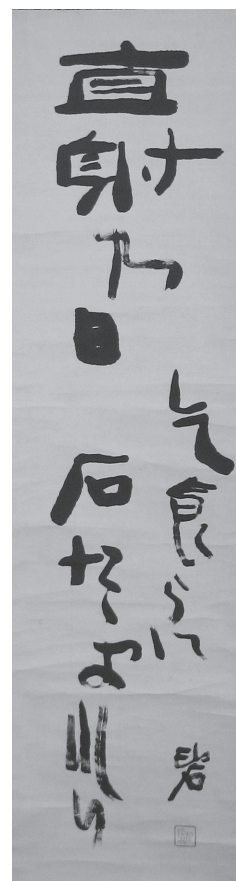
○吉田徳壽―「八戸PEN」
○瑠璃の会―「瑠璃」

○館報

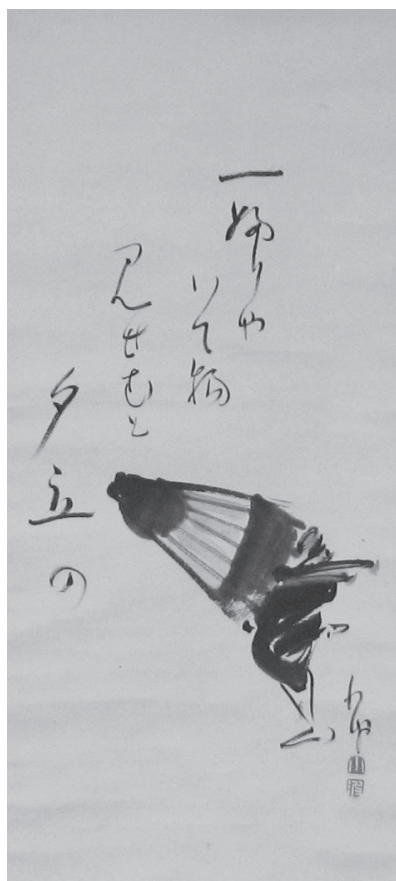
- 青森県総合社会教育センター
- 荒川区地域文化スポーツ部ゆいの森課
文学館係
- 有島記念館
- 池波正太郎記念文庫
- 石川近代文学館
- 石川啄木記念館
- 石坂洋次郎文学記念館
- 泉鏡花記念館
- 一茶記念館
- 井上靖記念館
- 岩手県立埋蔵文化財センター
- 大阪国際児童文学振興財団
- 大島博光記念館
- 小川未明文学館
- 科学研究費補助金プロジェクト「福永武彦、その文学の生成と発展」
- かこしま近代文学館・メルヘン館
- 神奈川文学振興会
- 金沢文芸館
- 軽井沢高原文庫
- 北九州市立文学館
- 北九州市立松本清張記念館
- 虚子記念文学館
- くまもと文学・歴史館
- 高知県立文学館
- こおりやま文学の森資料館
- 高志の国文学館
- 斎藤茂吉記念館
- 坂の上の雲ミュージアム
- 佐々木基一全集刊行会
- 白鳥省吾研究会事務局
- 杉並区立郷土博物館
- 世田谷文学館
- せたがや文化財団
- 全国文学館協議会
- 仙台文学館

- 高山市生涯学習課
 - 遅筆堂文庫
 - 調布市武者小路実篤記念館
 - 壺井栄文学館
 - 東京都江戸東京博物館
 - 藤村記念館
 - 東北大学史料館
 - 東北大学総合学術博物館
 - 徳島県立文学書道館
 - 豊島区立郷土資料館
 - 中原中也記念館
 - 新美南吉記念館
 - 日本近代文学館
 - 日本現代詩歌文学館
 - 俳人協会
 - 俳人協会青森県支部
 - 八戸市博物館
 - 原阿佐緒記念館
 - 姫路文学館
 - 弘前市立郷土文学館
 - 福井県ふるさと文学館
 - 福岡市文学館
 - ふくやま文学館
 - 文京区立森鷗外記念館
 - 文京ふるさと歴史館
 - 北海道立文学館
 - 松山市立子規記念博物館
 - 三浦綾子記念文学館
 - 宮崎二記念館
 - 棟方志功記念館
 - 室生犀星記念館
 - 盛岡てがみ館
 - 山口市文化振興財団
 - 山梨県立文学館
 - 吉川英治国民文化振興会
- (寄贈者名は五十音順で敬称を略しました。表記は資料に従って掲載いたしました。)

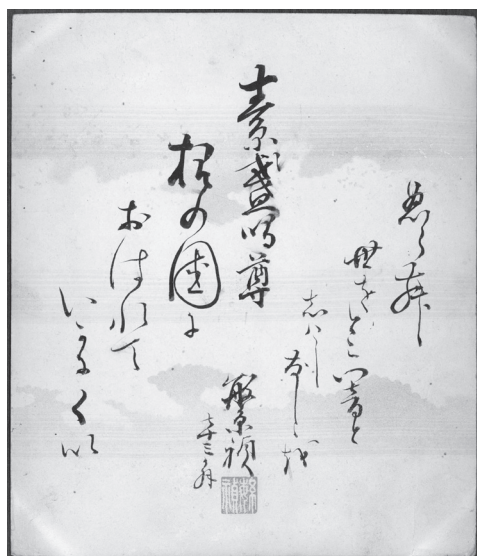
寄贈資料紹介(杉野美友旧蔵資料より)



河東碧梧桐句幅「直射の日」



巖谷小波俳句幅「一ゆりや」



大道寺繁禎色紙「素意鳴尊 根の国におはれていかに」

館務日誌 平成29年

エクステンド常設展示「佐藤紅緑と福士幸次郎 ―師友の系譜―」(平成28年12月22日～5月28日)	3月4日 毎日新聞社取材	7月5日 県高校図書委員研究大会(40名)見学	11月16日 伊藤英俊氏(秋田雨雀記念館館長)来館
1月7日 櫛引洋一氏(弘前市立郷土文学館企画研究専門官)来館	3月5日 第15回青森県近代文学館川柳大会開催(102名)	7月7日 北海道茅部郡森町立さわら小学校修学旅行(47名)見学	11月19日 日本大学OB会(5名)見学
1月19日 朝日新聞社取材	3月16日 草野力丸氏来館	7月8日 「葛西善蔵生誕130年特別展」開催(9月18日)	11月20日 青森市立浜田小学校(33名)見学
1月20日 東奥日報社取材	3月17日 NHK福山教室(21名)見学	(テーブルカット伊藤彰彦氏・川口浩一氏・佐藤宰館長)	11月22日 出前講座(つがる市文学散歩・竹浪18名)
1月25日 青山武仁氏来館、東奥日報社取材	3月18日 工藤経幸氏来館	7月9日 青森放送取材	11月23日 県立図書館協議会(11名)見学
出前講座(青森市中央寿大学・西谷)	3月20日 三上智成ご遺族来館	7月19日 三鷹市スポーツと文化部(2名)来館	11月28日 坂内徳明氏(放送大学特任教授)・ニコラエフ氏(ロシアナショナルライブラリー貴重本部門長)来館
参加者26名	4月6日 安藤宏氏(東京大学大学院教授)来館	7月23日 文学講座1「善蔵忌記念・朗読と講演」朗読・川口浩一氏、講師・鎌田慧氏(参加者102名)	12月7日 エクステンド常設展示「映画監督・川島雄三」開催(5月27日)、青森朝日放送取材
1月26日 出前講座(八戸市読書団体連合会・伊藤)参加者33名	4月10日 相馬信吉氏(奏海の会)来館	7月26日 青森南高校職場体験	12月8日 東奥日報社取材
1月27日 出前講座(青森市東部女子大学・大学院・竹浪)参加者27名	4月12日 柏谷弘陽氏(横浜町教育長)来館	8月1日 高木保氏来館	12月10日 日曜講座 講師・伊藤(参加者50名)、平島高文氏来館
成田耕造氏、山田雄大氏来館	4月18日 船水流氏(船水公明孫)来館、東奥日報社取材	8月10日 上條勝芳氏来館	12月12日 つがる市立稲垣小学校(20名)見学
1月28日 福士正一氏来館	4月22日 成田市子氏他3名(成田千空)ご遺族、木附沢麦青氏来館	8月20日 文学講座2「映像と講演」講師・伊藤博氏(参加者87名)	12月14日 FMあおり取材
2月7日 大柳繁造氏(青森県立三沢航空科学館館長)来館	4月25日 福士光生氏、石崎志玄氏来館	8月24日 安田保民氏来館	12月19日 出前講座(いちのへ町民セミナー・伊藤)参加者24人
2月8日 坂巻靖之氏(シズン史料室室長)、乾哲弥氏(東京美術代表取締役社長)、久慈さみ代氏来館	4月26日 世良啓氏、齊藤しじみ氏来館	9月3日 日曜講座 講師・竹浪(参加者23名)	12月20日 葛西清悦氏(油川コミュニティ協議会代表)来館
2月10日 館田勝弘氏来館	4月30日 小野寿子氏他俳誌「薫風」13名、田中博氏(深浦海岸美術館館長)来館	9月5日 青森市立青森西中学校(10名)見学	12月23日 青森テレビ取材
2月19日 出前講座(太宰治まなびの家・伊藤)参加者17名	5月21日 トークイベント「没後10年成田千空を語る」講師・齋藤美穂氏・西谷ともえ氏(参加者34名)	9月6日 青森商業高校職場体験	
2月25日 「青森県俳句懇話会寄贈資料展」開催(5月24日)	6月2日 エクステンド常設展示「太宰治と今官一」開催(11月29日)	9月7日 新谷ひろし氏・新谷勉氏来館	
(テーブルカット徳才子青良氏、草野力丸氏、小野いるま氏)	6月6日 青森県近代文学館文学資料調査員会議	9月11日 吉田槇子氏(今日出海三女)来館	
佐々木達司氏、野沢省悟氏来館、東奥日報社、陸奥新報社取材	6月7日 出前講座(青森市中央寿大学・伊藤)参加者26名	9月12日 文学館評議委員会	
2月26日 千葉青実ご遺族来館	6月13日 プリマヴェラ(14名)見学	9月14日 青森中央高校職場体験、日本大学(16名)見学	
3月1日 全国文学館協議会共同展示「追悼・津島佑子」3・11と『ヤマネコ・ドーム』開催(3月31日)	6月18日 津島園子氏来館、読売新聞社取材	9月17日 弘前南高校(26名)見学	
3月2日 青森朝日放送、東奥日報社取材	6月19日 出前講座(金木高校・伊藤)150名	9月20日 横手一彦氏(青森公立大学教授)来館	
	6月20日 東奥日報社取材	9月24日 東北大学国文学研究室(35名)見学	
	6月23日 青森中央短期大学(17名)見学	10月2日 長谷川勝則氏(つがる野文庫の会)来館	
	6月26日 東奥日報社取材	10月28日 「没後80年・菊谷栄展」開催(1月14日)	
		イースト・エンタテインメント(N	

青森県近代文学館報 第三十五号

発行日 平成三十年三月十五日

編集発行 青森県近代文学館(青森県立図書館内)

〒030-0184 青森市荒川字藤戸一九七

電話 〇七セ七九一五七五

http://www.plib.pref.aomori.jp/viewer/info.html?id=30

info.html?id=30